

第5話 出血性脳卒中(脳出血、くも膜下出血)

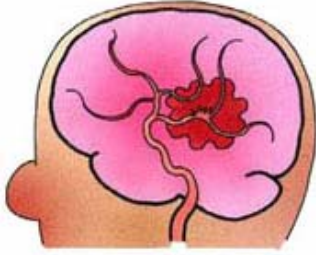
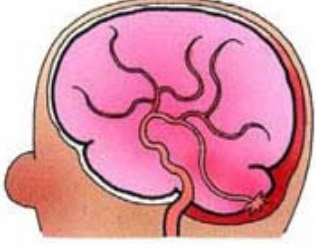
脳卒中は以下の二つに大別されます。

- ・血管が詰まって起こる →「脳梗塞」
- ・血管が破れて起こる →「脳出血」と「くも膜下出血」
(併せて、出血性脳卒中といいます)

これまでは「脳梗塞」について多くお話してきました。

今回は血管が破れる「出血性脳卒中」についてお話します。


①「脳出血」と「くも膜下出血」の違い、ご存知ですか？

<p style="text-align: center;">脳出血</p> 	<p style="text-align: center;">〈脳の中の出血〉</p> <p>脳の中を走る細い血管から出血し、血液の塊を作って脳を破壊してしまう病気です。 脳内出血と表現される場合もあります。</p> <p>出血が大きい場合は、手術で取り除きます。</p>
<p style="text-align: center;">くも膜下出血</p> 	<p style="text-align: center;">〈脳の表面の出血〉</p> <p>脳の表面に張り巡らされた太い血管にコブ(脳動脈瘤)が出来ることがあります。 そのコブが破れて脳の表面に出血する病気です。 脳をゴムボールに例えると、その表面にトマトジュースを一気にブチマケたイメージです。</p> <p>動脈瘤の再破裂を予防する目的で、手術治療が行われます(第8話参照)</p>

② 出血性脳卒中、発症した場合の予後は？

脳梗塞に比べて重篤な病気です。
くも膜下出血では死亡率が約 30%、脳出血では約 50%の方で介護を要する状態
となるとも報告されています。

③ 出血性脳卒中の症状、「脳梗塞」との違いは？



頭が痛い

吐き気がする

脳梗塞	発症時に頭痛はまずありません
脳出血	頭痛、半身の運動麻痺や言語障害が出現
くも膜下出血	突然の激しい頭痛で発症。重篤な場合は、 発症直後に意識障害、呼吸停止

④ 出血性脳卒中、発症の前触れがありますか？

脳梗塞では、20～25%に前触れや警告発作があります。
出血性脳卒中では、ほとんどが突然に発症します。

⑤ では出血性脳卒中、防ぐ手立ては何もないのでしょうか？

MRI 検査によって、「かくれ脳出血」や「脳動脈瘤」
を見つけることができます。
その意義などについては、〈第 6 話〉、〈第 8 話〉で
お話させていただきます。

